

## 支出税の研究 ～税込みか税抜きか～

2006年1月16日(月)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

所得税の場合、わかりやすいのは税込みの税率だが、支出税の場合には税抜きの税率のほうがわかりやすくなる。

なぜなら、所得税は支払う税を含んだ今期の所得から支払われるが、支出税の場合には支払う税を含まない前期の支出をもとに税金が支払われるからである。税込みの税率を  $t$  とすれば、税抜きの税率は  $t / (1 - t)$  で表せる。たとえば、税込みで 50% の税率は税抜きでは 100% の税率、税込みで 60% の税率は税抜きでは 150% の税率となる。

しかし、支出税の場合、税込みの税率にすれとわかりにくくなるという問題がある反面、税抜きの税率を適用するよりも平均的な支出に課税することができるという利点がある。いま、支出税の税込みの税率を  $t$ 、純支出を  $X$ 、支出税を含めた総支出を  $E$  とすると、 $n$  期の総支出は  $E_n = X + t E_{n-1}$  となる。そこである特定の期に純支出が  $X$  から  $X + X$  に増え、後の期間はまたもとの  $X$  にもどったとする。たとえば、第 3 期にそのような変化が起こったとする。すると総支出は次のようになるだろう。

0 期 純支出  $X$

1 期 総支出  $E_1 = E_0 = X + t E_0$     ただし、 $t E_0 = [t / (1 - t)] X$

2 期 総支出  $E_2 = E_0 = X + t E_0$

3 期 総支出  $E_3 = X + X + t E_0$

4 期 総支出  $E_4 = X + t E_3 = X + t (X + X + t E_0) = X + t X + t E_0$

5 期 総支出  $E_5 = X + t E_4 = X + t (X + t X + t E_0) = X + t^2 X + t E_0$

6 期 総支出  $E_6 = X + t E_5 = X + t (X + t^2 X + t E_0) = X + t^3 X + t E_0$

7 期 総支出  $E_7 = X + t E_6 = X + t (X + t^3 X + t E_0) = X + t^4 X + t E_0$

$n$  期 総支出  $E_n = X + t E_{n-1} = X + t (X + t^{n-4} X + t E_0) = X + t^{n-3} X + t E_0$

$X$  の項の増加の合計は  $t X + t^2 X + t^3 X + \dots$  となり、これは初項が  $t X$ 、公比が  $t$  の無限等比級数の和に等しく、 $[t / (1 - t)] X$  に収束していく。したがって、支出税の税率が税込みの場合には、変動した支出の分の税が何年にもわたって支払われることになるのである。

その際、税率が低いケースでは変動した支出に対する税の支払いは比較的短期間にほとんど完了するが、税率が高ければ高いほど税の支払いのおおよその完了は遅くなる。

このように支出税の場合には、税率を税込み表示にするか税抜き表示にするかで若干意味が違ってくる。どちらを採用してもかまわないが、税抜きにすると納税者にとってわかりやすいという利点があり、税込みの場合には支出の短期的変動を緩和することができるという利点がある。